

コジ・ファン・トゥツテ

Così fan tutte

オペラパレス | 5 回公演 | 全2幕 (イタリア語上演/字幕付)

初 演: 1790 年1月26日 ウィーン・ブルク劇場

作 曲: ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト Wolfgang Amadeus Mozart (1756-1791)

台 本: ロレンツォ・ダ・ポンテ Lorenzo da Ponte

演目選定にあたって

副題を「恋人たちの学校」というこの作品、異性に対して感情のおもむくままにしていると痛い目にあいますから、理性をお忘れなくという“教育的寓話”とも呼べる作品として誕生しました。このモーツァルトの美しいアンサンブル・オペラには、6人のソリストがみな、同じレベルで優れたアンサンブルを聴かせることが求められます。指揮のパオロ・カリニャーニのアンサンブル作りはウィーン・フィルが絶賛するほどで、その圧倒的な素晴らしさは他の追随を許しません。新国立劇場に集まる粒ぞろいの歌手陣を、若手演出家でもっとも注目されているダミアノ・ミキエレットがどう動かすのか、注目の新制作公演にご期待ください。

作品解説

『ドン・ジョヴァンニ』『フィガロの結婚』とともにモーツァルトの「ダ・ポンテ三部作」として知られる最後の作品。「女はみんなこうしたもの」という意味のタイトルが表わすように、2組のカップルが互いに恋人を交換して相手の貞節ぶりを試し、最後はハッピーエンドとなる他愛のない恋愛喜劇。その中に、鋭い洞察による男女の感情の機微、人間の本質や愚かさを鋭く描き上げた傑作です。二重唱をはじめ三重唱、四重唱、五重唱と、揺れ動く感情の交錯を表現する均整のとれた優美なアンサンブルは、モーツァルト・オペラの極致といってもよい美しさです。第1幕の別れの五重唱〈毎日手紙をかいてね〉や美しい三重唱〈風よおだやかなれ〉、第2幕のアリア〈女が15歳にもなれば〉や四重唱〈お嬢様お手をどうぞ〉、二重唱〈あの胸に抱かれて〉など、心が洗われるような音楽が全編に渡って奏でられます。

あらすじ

18世紀のナポリ。士官のグリエルモとフェルランドは、美しい姉妹フィオルディリージとドラベツァとそれぞれ婚約している。老哲学者ドン・アルフォンソにそそのかされ、ふたりは恋人の貞操観念をめぐる賭をすることになる。戦場に赴くことになったふりをして偽りの別れを演じた後、嘆き悲しむ姉妹を女中のデスピーーナがたしなめていると、アルバニア人に変装したグリエルモとフェルランドが登場し、あの手この手で姉妹を口説く。姉妹の心は次第に揺らぎ、ドラベツァが姉の婚約者グリエルモに、さらに「自分の貞操は岩のように固い」と言っていたフィオルディリージもフェルランドの口説きに陥落してしまう。新しい2組のカップルの結婚式が行われるところに、軍隊(婚約者たち)の帰還が告げられる。姉妹は恋人たちに死ぬ覚悟で罪を告白すると、ドン・アルフォンソが芝居の種明かしをし、婚約者たちはめでたく元の鞘におさまる。

W.A. モーツァルト

コジ・ファン・トゥツテ

Così fan tutte / Wolfgang Amadeus Mozart

全2幕〈イタリア語上演／字幕付〉

指揮……………	バオロ・カリニャーニ
Conductor	Paolo Carignani
演出……………	ダミアーノ・ミキエレット
Production	Damiano Michieletto
美術・衣裳……………	バオロ・ファンティン
Scenery and Costume Design	Paolo Fantin
フィオルディリージ……………	アンナ・サムイル
Fiordiligi	Anna Samuil
ドラベッラ……………	ダニエラ・ピーニ
Dorabella	Daniela Pini
デスピーーナ……………	エレナ・ツアラゴワ
Despina	Elena Tsalagova
フェルランド……………	ディミトリー・コルチャック
Ferrando	Dmitry Korchak
グリエルモ……………	アドリアン・エレート
Guglielmo	Adrian Eröd
ドン・アルフォンソ……………	ローマン・トレーケル
Don Alfonso	Roman Trekel
合唱……………	新国立劇場合唱団
Chorus	New National Theatre Chorus
管弦楽……………	東京フィルハーモニー交響楽団
Orchestra	Tokyo Philharmonic Orchestra

2011.5/29 (日) 2:00 6/8 (水) 2:00
 6/2 (木) 6:30 6/11 (土) 2:00
 6/5 (日) 2:00

オペラパレス

【チケット料金(税込)】

S : 23,100円・A : 18,900円・B : 12,600円・C : 7,350円・D : 4,200円

【前売開始】2011.2/12 (土)

コジ・ファン・トゥッテ

Così fan tutte / Wolfgang Amadeus Mozart

指揮：パオロ・カリニャーニ

Conductor : Paolo Carignani

ミラノ生まれ。ジュゼッペ・ヴェルディ音楽院で作曲、オルガン、ピアノを学ぶ。これまでにイタリアの主要歌劇場のほか、ウィーン国立歌劇場、メトロポリタン歌劇場、バイエルン州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、英国ロイヤルオペラ、バリ・オペラ座、バルセロナのリセウ劇場、ネザーランド・オペラ、グラインドボーン音楽祭、ロッシェニ・オペラ・フェスティバルなどで各地で指揮をしている。1999年から2008年までフランクフルト・オペラの音楽総監督およびフランクフルト・ミュージアム・オーケストラの音楽監督。今後の予定としては、メトロポリタン歌劇場、ウィーン国立歌劇場、バイエルン州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラなどの出演が決まっている。新国立劇場初登場。



演出：ダミアーノ・ミキエレット

Production : Damiano Michieletto

ヴェネツィア生まれ。ミラノの「パオロ・グラッシ」ドラマティック・アーツ・スクールで演出を学び、ヴェネツィアのカ・フォスカリ大学で現代文学を学ぶ。初期の演出は、ミラノでストラヴィンスキーの『兵士の物語』、『真夏の夜の夢』、『動物の謝肉祭』、『ノアの洪水』など。ロッシェニ・オペラ・フェスティバル、フィレンツェのマッジョ・ムジカーレ、ジェノヴァのカルロ・フェリーチェ歌劇場、チューリッヒ歌劇場、ナポリのサン・カルロ劇場、ボローニャ歌劇場などで活躍。『セビリアの理髪師』『泥棒かささぎ』『ファルスタッフ』『アルジェのイタリア女』『ランメルモールのルチア』『後宮からの誘拐』などを演出している。新国立劇場初登場。

フィオルディリージ：アンナ・サムイル

Fiordiligi : Anna Samuil

モスクワ生まれ。モスクワ・チャイコフスキー音楽院でヴァイオリンと声楽を学ぶ。2004/2005シーズンよりベルリン州立歌劇場専属歌手に。他にもミラノ・スカラ座、バイエルン州立歌劇場、メトロポリタン歌劇場、リヨン国立歌劇場、ザルツブルク音楽祭、エディンバラ音楽祭などに出演。『椿姫』ヴィオレッタ、『リゴレット』ジルダ、『愛の妙薬』アディーナ、『ラ・ボエーム』ミミとムゼッタ、『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・アンナ、『コジ・ファン・トゥッテ』フィオルディリージ、『カルメン』ミカエラなどを歌っている。今後の予定としては、バイエルン州立歌劇場で『ドン・ジョヴァンニ』、ミラノ・スカラ座で『神々の黄昏』、ベルリン州立歌劇場で楽劇『ニーベルングの指環』『ローエングリン』『フィガロの結婚』『ラ・ボエーム』などがある。新国立劇場初登場。



ドラベッラ：ダニエラ・ピーニ

Dorabella : Daniela Pini

ボローニャ大学で歴史と音楽を学び、その後モデナでアンジェロ・ベルタッキ氏に師事。これまでにボローニャ歌劇場、バレルモのマッシモ歌劇場、ヴェローナ歌劇場、トリノ歌劇場、シュトゥットガルト市立劇場、フランクフルト、東京などで活躍。『アルジェのイタリア女』イザベラ、『チェネントラ』アンジェリーナ、『セビリアの理髪師』ロジーナ、『コジ・ファン・トゥッテ』ドラベッラ、『フィガロの結婚』ケルビーノ、『皇帝ティトゥスの慈悲』アンニオ、『蝶々夫人』スズキなどをレパートリーとする。今後の予定としては、フランクフルトで『オルランド・フリオーゾ』、ボローニャで『皇帝ティトゥスの慈悲』、シアトルで『チェネントラ』などがある。新国立劇場初登場。



コジ・ファン・トゥッテ

Così fan tutte / Wolfgang Amadeus Mozart

デスピーナ: エレナ・ツアラゴワ

Despina : Elena Tsalagova

ロシア南部のウラジカフカス生まれ。サンクト・ペテルブルク音楽院で学ぶ。これまでにマリインスキー劇場、パリ・オペラ座、ザルツブルク音楽祭などに出演している。2008年11月よりバイエルン州立歌劇場と2年契約。『コジ・ファン・トゥッテ』デスピーナ、『フィガロの結婚』バルバリーナ、『ラ・ボエーム』ムゼッタ、『ファルスタッフ』ナンネッタ、『ウェルテル』ゾフィー、『利口な女狐』タイトルロール、『アルミーダ』ツェルミラなどを歌っている。名ソプラノ歌手イリアナ・コトルバスに師事し、レパートリーをさらに広げるべく研鑽を積んでいる。新国立劇場初登場。



フェルランド: デイミトリー・コルチャック

Ferrando : Dmitry Korchak



ロシア生まれ。これまでにミラノ・スカラ座、ベルリン州立歌劇場、英国ロイヤルオペラ、ローマ歌劇場、パレルモのマッシモ歌劇場、ナポリのサン・カルロ劇場、モネ劇場、パリ・オペラ座、チューリッヒ歌劇場、ロッシーニ・オペラ・フェスティバルなどに出演。『コジ・ファン・トゥッテ』フェルランド、『魔笛』タミーノ、『ドン・ジョヴァンニ』ドン・オッターヴィオ、『ファルスタッフ』フェントン、『セビリアの理髪師』アルマヴィーヴァ伯爵などを歌っている。今後の予定としては、アムステルダムとバイエルン州立歌劇場で『愛の妙薬』ネモリーノ、トゥールーズで『ドン・ジョヴァンニ』と『セビリアの理髪師』、ロサンゼルスで『セビリアの理髪師』、ハンブルク州立歌劇場で『連隊の娘』トニオなどがある。新国立劇場初登場。

グリエルモ: アドリアン・エレート

Guglielmo : Adrian Eröd

ウィーン生まれ。ウィーン音楽大学で学ぶ。2003/2004年よりウィーン国立歌劇場の専属歌手として活躍、ハンブルク州立歌劇場、リンツ州立歌劇場、エクサンプロヴァンス音楽祭などにも登場。09年にバイロイト音楽祭に初登場。『フィガロの結婚』タイトルロールと伯爵、『魔笛』パパゲーノ、『コジ・ファン・トゥッテ』グリエルモ、『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロール、『チェネレントラ』ダンディーニ、『マノン・レスコー』レスコー、『マイスタージンガー』ベックメッサー、『ラインの黄金』ローゲなどをレパートリーとする。今後の予定としては、チューリッヒで『ニュルンベルクのマイスタージンガー』、ウィーン国立歌劇場でライマンの『メデア』世界初演、パリ・オペラ座、ドレスデン、ウィーン各地での『カブリッチョ』などがある。新国立劇場初登場。



ドン・アルフォンソ: ローマン・トレケル

Don Alfonso : Roman Trekel



ドレスデン近郊のピルナ生まれ。7歳のときよりヴァイオリン、リコーダー、オーボエのレッスンを受ける。1988年よりベルリン州立歌劇場のアンサンブルメンバー。『ナクソス島のアリアドネ』ハルレキン、『コジ・ファン・トゥッテ』グリエルモ、『魔笛』パパゲーノ、『タンホイザー』ヴォルフラムなどを歌っている。これまでにザクセン州立歌劇場、バイエルン州立歌劇場、英国ロイヤルオペラ、ザルツブルク音楽祭、フィレンツェのマジヨ・ムジカレのほか、96年以来バイロイト音楽祭に定期的に出演。2000年12月に宮廷歌手の栄誉に輝いた。10年にはミラノ・スカラ座に出演予定。新国立劇場には04年『神々の黄昏』グンターで独特の存在感を示して以来2度目の出演となる。